

# 保育音楽指導に関する一考察

——実習に対する音楽意識調査を通して——

黒瀬久子・三好良枝

## A Consideration on Musical Instruction in the Nursery Course

——Through the Investigation into the Music Senses  
of Student teachers——

Hisako・Kurose

Yoshie・Miyoshi

### 1. はじめに

社会環境の大きな変化やマス・コミの発達に伴い、幼児をとりまく文化的環境も年々激しく変化してきている現代、幼児期における音楽教育の必要性は充分認識されており、現場ではその多種多様な音楽に対してその指導法については、さまざまな方法で取り組みがなされている。こういった状況の中で保育者に要求されるものは、しっかりとした基礎的な技術とさらにこれらに適応できる能力を身につけることであろう。しかしながら限られた二年間でこれらの基礎能力および指導方法を習得させることは至難なことであり、その指導内容や方法を模索しているのが現状である。また現在、保育者養成校においては一年次に学外実習を実施するところもあり、増々実技指導の時間不足がクローズ・アップされてきている。このような現状を踏まえ、今回の調査は学生が実習をどのように捉え、また実習を通して幼児の音楽教育に対する意識がどのように変化するかを知り、その実態を把握した上で、音楽指導のあり方を検討し、今後の取り組みの資料とすることを目的とした。

### 2. 調査方法

調査時期 1983年6月初旬、9月中旬

調査対象 下関女子短期大学保育科と山口県内の一短大の幼児教育科及び短大併設の一保母養成所の二年生を対象とした。

対象人数 実習前 248名(本学86名) 実習後 274名(本学105名)

調査方法 質問紙により各項目を5段階の自己評定及び質問事項について選択による回答を求めた。又一部自由記述形式の質問もこころみた。

### 3. 調査内容

校外実習に出て、必要と思われる音楽指導の場を想定し、具体的事項をあげて、指導前後で学生の幼児音楽に対する意識がどのように変化するかを調査するものである。

#### 音楽意識調査（学外実習に関して）1983年6月

この調査は、学外実習を目前にして、皆さんが、音楽に対してどのような意識を持っているかを知るためのものです。現在の状況を正直に答えて下さい。

回答は、5段階で評価し、5(できる) 4(だいたいできる) 3(ふつう) 2(少しできる)

1(できない)とします。(16は異なる)また18,19は、下のことばの中から選び記号で回答して下さい。

- 1) ピアノで歌の伴奏ができますか。 5 4 3 2 1
- 2) ピアノで、マーチ等動きのリズムを弾くことができますか。 5 4 3 2 1
- 3) 子どもを見ながら、ピアノを弾くことができますか。 5 4 3 2 1
- 4) 子どもに、はっきりと聞こえるように歌うことができますか。 5 4 3 2 1
- 5) 暗譜で弾き歌いができますか。 5 4 3 2 1
- 6) ピアノ等の楽器がなくても歌の指導ができますか。 5 4 3 2 1
- 7) 幼児用の楽器が正しく使えますか。 5 4 3 2 1
- 8) 各年令に応じた楽器の指導や楽器を使って音楽の指導ができますか。 5 4 3 2 1
- 9) リズムあそび・楽器あそび・歌あそび等、あそびを通して音楽の指導ができますか。 5 4 3 2 1
- 10) あそびを通じた音楽の指導で、そのねらいを達成できますか。 5 4 3 2 1
- 11) 音楽で身体表現の指導ができますか。 5 4 3 2 1
- 12) 実習に出るために、あなたは音楽に関することを準備できましたか。 5 4 3 2 1
- 13) 童謡は練習できましたか。 5 4 3 2 1
- 14) あいさつの歌等生活の歌の練習できましたか。 5 4 3 2 1
- 15) マーチ等を練習できましたか。 5 4 3 2 1
- 16) その他に準備したことがあれば書いて下さい。  
 (1) \_\_\_\_\_  
 (2) \_\_\_\_\_  
 (3) \_\_\_\_\_
- 17) 実習に出るに当り、音楽の指導するのに、自信はありますか。 5 4 3 2 1
- 18) 今まで勉強してきた音楽の中で現場では何が役立つと思いますか。 5 4 3 2 1

- |         |          |             |             |        |
|---------|----------|-------------|-------------|--------|
| イ) 合奏   | ロ) 歌唱    | ハ) 伴奏法      | ニ) 音楽理論     | ホ) 指揮法 |
| ヘ) ピアノ  | ト) ギター   | チ) 創作       | リ) 鑑賞       | ヌ) 編曲法 |
| ル) 身体表現 | ワ) 音楽リズム | リ) ソルフェージュ※ | カ) 幼児の音楽教育法 |        |

※ ソルフェージュ：説講・初見視奏・初見視唱・聴音等の総称

- 19) あなたは実習中に、どんなものを指導してみたいと思っていますか。 \_\_\_\_\_
- イ) わらべ唄    ロ) 絵かきうた    ハ) ことばあそび    ニ) 手あそび    ホ) リズムあそび  
ヘ) 集団あそび    ト) フォークダンス    チ) 合奏    リ) 童謡    ス) その他

音楽意識調査（学外実習に関して）1983年9月

この調査は学外実習を終えて皆さんが音楽に対してどのように意識が変わったかを知るためのものです。現在の状況を正直に答えて下さい。

回答は5段階で評価し、5（できた） 4（だいたいできた） 3（ふつう） 2（少しかつ） 1（できなかった）とします。（12～15は異なる）また18,19については、下のことばの中から選び記号で回答して下さい。

- 1) ピアノで歌の伴奏ができましたか。 5 4 3 2 1
- 2) ピアノでマーチ等動きのリズムを弾くことができましたか。 \_\_\_\_\_
- 3) 子どもを見ながらピアノを弾くことができましたか。 \_\_\_\_\_
- 4) 子どもにはっきりと聞こえるように歌うことができましたか。 \_\_\_\_\_
- 5) 暗譜で弾き歌いができましたか。 \_\_\_\_\_
- 6) ピアノ等の楽器がなくても歌の指導ができましたか。 \_\_\_\_\_
- 7) 幼児用の楽器を正しく使うことができましたか。 \_\_\_\_\_
- 8) 各年齢に応じた楽器の指導や楽器を使って音楽の指導ができましたか。 \_\_\_\_\_
- 9) リズムあそび、楽器あそび、歌あそび等を通して音楽の指導ができましたか。 5 4 3 2 1
- 10) あそびを通じた音楽の指導でそのわらいを達成できましたか。 \_\_\_\_\_
- 11) 音楽で身体表現の指導ができましたか。 \_\_\_\_\_
- 12) 実習に出るために、あなたが音楽に関して準備したことが役に立ちましたか。 
ないない 少く できた  
役立たな 役に 役立た  
役立たな 役立た 役立た  
役立たな 役立た 役立た
- 13) あなたが練習した童謡が役に立ちましたか。 5 4 3 2 1
- 14) あなたが練習したあいさつの歌等生活の歌は役に立ちましたか。 \_\_\_\_\_
- 15) あなたが練習したマーチ等が役に立ちましたか。 \_\_\_\_\_
- 16) その他に準備したことで役に立ったことがあれば書いて下さい。

① \_\_\_\_\_ ② \_\_\_\_\_ ③ \_\_\_\_\_

- 17) 実習に出て音楽の指導が自信をもってできましたか。 
ないない 少く できた  
役立たな 役に 役立た  
役立たな 役立た 役立た  
役立たな 役立た 役立た
- 18) 今まで勉強してきた音楽の中で、現場では何が役に立ちましたか。 \_\_\_\_\_

- イ) 合奏    ロ) 歌唱    ハ) 伴奏法    ニ) 音楽理論    ホ) 指揮法  
ヘ) ピアノ    ト) ギター    チ) 創作    リ) 鑑賞    ス) 編曲法  
ル) 身体表現    ヲ) 音楽リズム    ウ) ソルフェージュ※    カ) 幼児の音楽教育法    コ) その他  
※ ソルフェージュ：読譜・初見視奏・初見視唱・聴音等の総称

- 19) あなたは実習中にどんなものを指導しましたか。 \_\_\_\_\_
- イ) わらべ唄    ロ) 絵かきうた    ハ) ことばあそび    ニ) 手あそび    ホ) リズムあそび  
ヘ) 集団あそび    ト) フォークダンス    チ) 合奏    リ) 童謡    ス) その他

20) 実習中に音楽の指導をしていて困ったことがあれば書いて下さい。

21) 子どもの音楽について実習前に考えていたことと、実習後に感じたことを書きなさい。

実習前 \_\_\_\_\_

実習後 \_\_\_\_\_

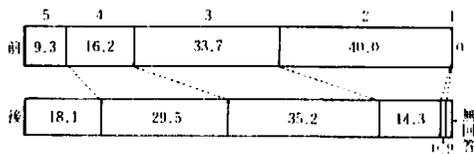
22) 実習後、これからどんな音楽の勉強をしなければならぬと思いますか。

23) その他幼児音楽に関して感じたこと、考えたことがあれば書いて下さい。

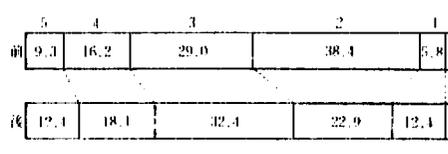
#### 4. 結果及び考察

図 I

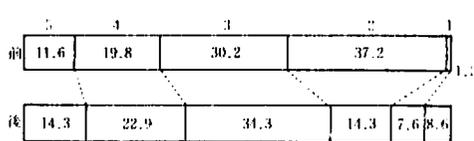
(1) ピアノで歌の伴奏



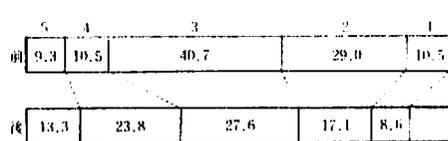
(5) 暗譜で歌い弾き



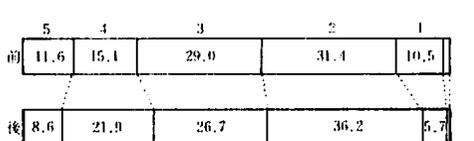
(2) ピアノでマーチ等動きのリズムを弾く



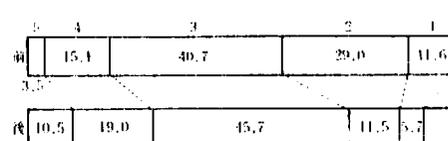
(6) ピアノ等楽器を使わずに歌の指導



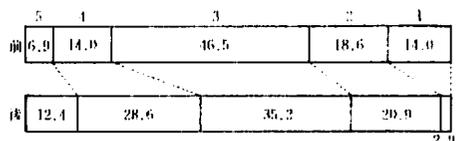
(3) 子供をみながらピアノを弾く



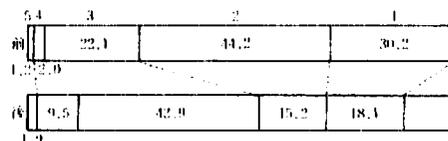
(7) 幼児用の楽器が正しく使える



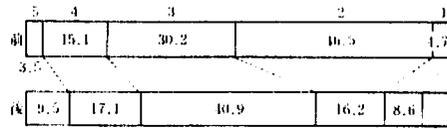
(4) はっきり聞こえるように歌う



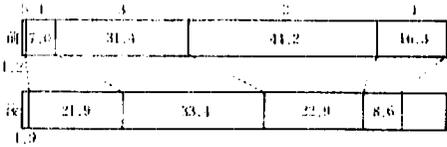
(8) 年齢に応じた楽器の指導



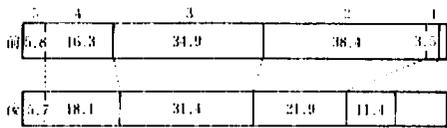
(9) あそびを通した音楽の指導



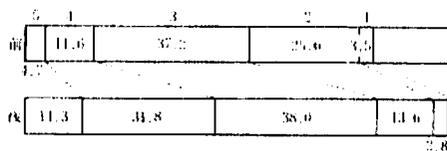
(10) あそびを通した音楽の指導でねらいを達成



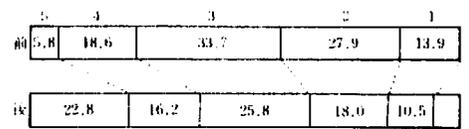
(11) 音楽で身体表現の指導



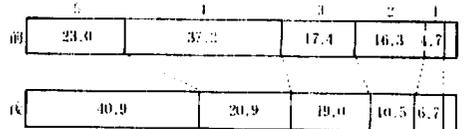
(12) 実習のための音楽に関する準備



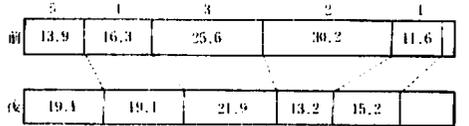
(13) 童謡の練習



(14) あいさつの歌等生活の歌の練習



(15) マーチ等の練習



(17) 音楽指導に対する自信

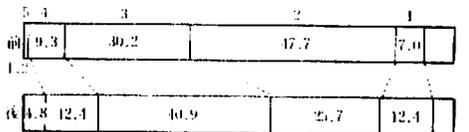
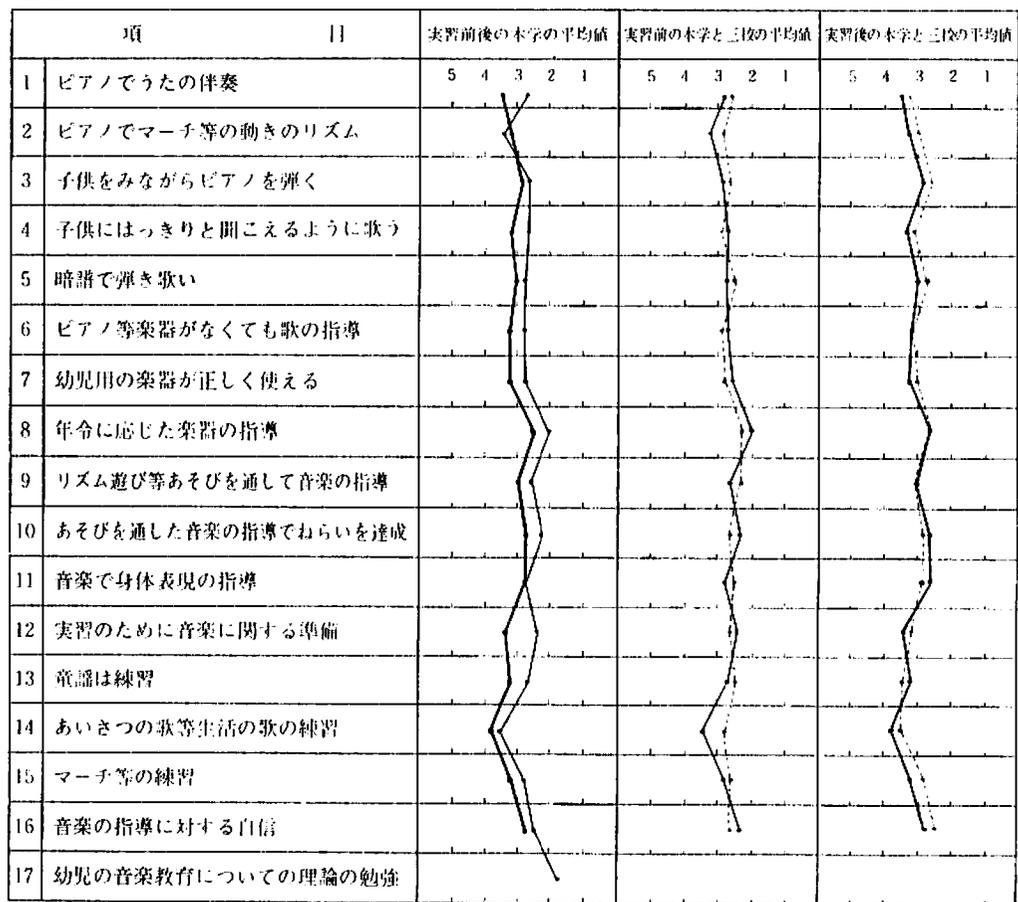


図1は(1)~(17)までの各質問項目の自己評価をパーセントで表わしてみた。それぞれ5、4と自己評価した比率が実習前より実習後が高くなっているのは、実習前にこのような意識調査を行なったことにより、学生の実習に対する意欲を喚起することになった結果と思われる。しかし、実習前の調査で質問項目によっては無回答があるのは、実習そのものに対して、なんとかなるであろうということと、反対に不安の大きさ、関心のうすさとも考えられる。なかでも質問(14)のあいさつの歌等生活の歌の練習に対しては、付属幼稚園の実習(二日間)ですでに経験しているにもかかわらず、無回答ということは実習に対しての意識のうすさ、無関心さそのものと思われる。それに対して実習後の無回答は実習前と意味合いが異なると思われる。すなわち実習先で質問のような場面に遭遇しなかったため経験できなかったという回答がなされている。質問(2)以外は実習前より実習後の数値(%)が高くなっている。質問(2)ピアノでマーチ等動きのリズムが弾けるか、については歌ったり弾くことはできても、動きのリズムに関しては、子供を見ながら弾くことが出来なかったと思われる。図1のように実習前後を三校の平均と比較し

ても、全体的に実習前より実習後の平均値は高くなっている。特に質問(8)年令に応じた楽器の指導や楽器を使っての音楽の指導に対する本学の平均値は実習前悪かったが、先にのべたように実習前にこのような調査をした結果、学生の意識が喚起され、実習後高くなったと考える。

図II



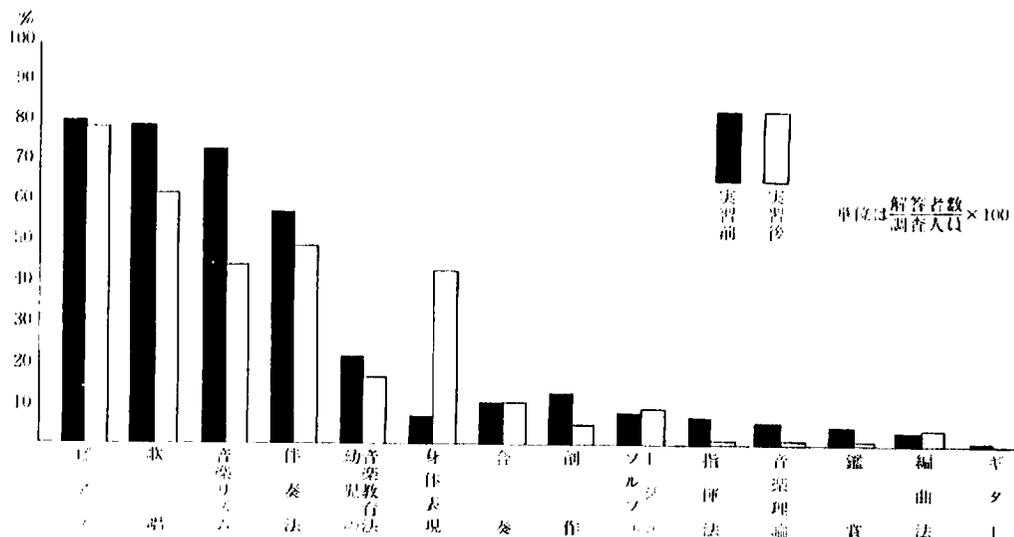
——実習前      ——本学のみ平均値      ——本学のみ平均値  
 ——実習後      .....三校の平均値      .....三校の平均値

(16)実習前においては、学生が自ら準備したものがあつかう質問をし、実習後においては準備したもので役立つものがあるかという質問に対して、実習前に準備したものにリズム遊び、手遊び、指遊び、身体表現、季節行事に関するうたがあがっている。実習後もこれらの内容があげられており、又実習後ではマーチ、手作りのリズム楽器、ペープサートや紙芝居を使用しての歌唱指導が役立つとのべている。その他として、午睡用の曲、前奏曲、賛美歌等、園の一日の生活に関するものを実習前後ともに準備し、役立つとのべている。なおこの質問に対する回答は非常に少なかった。

(18)今まで勉強してきた音楽の中で現場で何が役立つと思うか。又実習後において何が役立つ

たかという質問に対する結果は図Ⅲの通りである。

図Ⅲ (18)今まで勉強してきた音楽の中で現場で役立つもの



これを三校の比率(%)と比較してみると、下の表のような結果である。

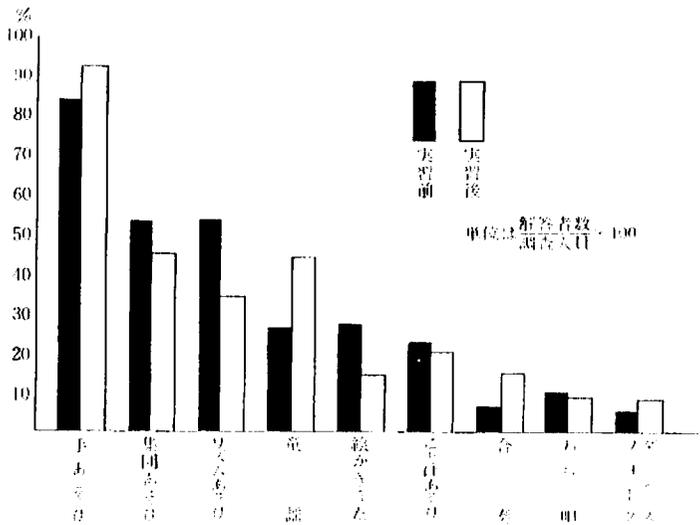
三校の実習前後の比率(%)

|     | 歌 唱  | ピ ア ノ | 音 楽<br>リズ ム | 伴 奏<br>法 | 身 体<br>表 現 | 幼 児 の 音<br>楽 教 育 法 | 合 奏  | 創 作  | 指 揮<br>法 | ソ ル フ ェ<br>エ ュ | 編 曲<br>法 |
|-----|------|-------|-------------|----------|------------|--------------------|------|------|----------|----------------|----------|
| 実習前 | 71.3 | 67.3  | 61.6        | 60.0     | 32.2       | 17.7               | 16.1 | 12.9 | 10.8     | 9.2            | 6.0      |
| 実習後 | 56.2 | 70.0  | 40.9        | 51.0     | 33.2       | 12.0               | 6.2  | 2.6  | 2.6      | 11.3           | 3.6      |

本学と比較した場合、順位の差は多少あるが、実習前後共に歌唱、ピアノ、音楽リズム、伴奏法に対する比率が高い。特に本学の実習前と実習後の比率の中で実習後身体表現が高い比率を示しているのが特徴である。幼児は身体を通して様々なことを吸収し、多くの経験をつみ重ねて音楽的感覚をとらえさせていくことが大切であるので、この指導においては、しっかりとした音楽的基礎力を身につけた上で、子供のうごきをみながらの応用能力が必要とされる。ここで身体表現の必要性が高い比率を示しているということは今後学内においての取り組みをさらに検討する必要があると思われる。

(19)どんなものを指導したいか。又実習後においてどんなものを指導したか。という質問に対する結果は図Ⅳの通りである。

図Ⅳ (19)実習中に指導したいこと(したこと)



いることを示している。又合奏は童謡を主題にした簡単なリズム楽器を使っでの表現活動の一端と考えられる。三校の実習前後の比率は表1の通りである。

表1

|     | 手あそび | リズムあそび | 集 団あそび | 童 謡  | おらべ唄 | 絵かきたう | ことばあそび | 合 奏 | フー・ブ・ダンス |
|-----|------|--------|--------|------|------|-------|--------|-----|----------|
| 実習前 | 85.4 | 54.0   | 36.6   | 34.2 | 17.3 | 16.9  | 14.1   | 4.4 | 3.2      |
| 実習後 | 89.4 | 40.1   | 34.7   | 43.4 | 10.9 | 11.7  | 16.8   | 9.5 | 6.2      |

三校の平均比率においても手あそびは圧倒的に高い比率で、しかも実習前よりも実習後が4%

表Ⅱ

| 項 目                                                       | 実数 | %    |
|-----------------------------------------------------------|----|------|
| 学生自身の基礎技能に関するもの<br>(練習不足、ピアノに自信がない、発声)<br>マーチがあわない、歌詞を覚える | 24 | 22.9 |
| 指導法に関するもの<br>(歌唱の指導法、楽器を使っでの指導)<br>事前指導                   | 17 | 16.2 |
| 教材(研究)に関するもの<br>(即興演奏)                                    | 4  | 3.8  |
| 子供に関するもの<br>(どなってるうた、集中してくれない、反応が少ない)                     | 14 | 13.4 |
| 環境設備に関するもの<br>(楽器の種類が多くてこまらた)                             | 2  | 1.9  |
| その他<br>(子供をみながら指導できなかった)<br>(ピアノを弾きながら次の歌詞を言う)            | 2  | 1.9  |

(無回答のものや、二つ以上の項目に渡るものがあるため、100%にはならない。)

実習前後を通して、手あそびが圧倒的に高い比率である。学生自身にも簡単であり又子供達が興味をもつという導入の手段としての消極的な考え方から出たものではなからうか。その他の項目については全体的に実習後の比率が実習前より低くなっているなかで、童謡と合奏が高い比率をとっている。童謡は子供の保育

の中に重要な要素となっ

てきている。

も高くなっている。又本学

と同じく童謡に対する比率

も9.2%も高くなっている。

(20)実習中に音楽の指導を

して困ったことがあれば

書きなさいという問に対して、

広範囲な内容であったため、

次のように分類してみた。

(表Ⅱ)

(2)子供の音楽について実習前に考えていたことと実習後に感じたことの質問項目について実習前には子供に対する認識不足たとえば雰囲気づくりに努めればよいとか子供はついてくると思った、ということ。又ピアノがうまくひけるか、はっきりきこえるようにうたえるかという自分自身の技術についての不安、又歌の指導が多いと思ったという指導内容に関するもの、その他考えていなくて適当にやればよいというもので様々なものが増えられた。実習後これらが認識不足で、子供達はなんでも反応してくれ、リズム感も予想以上に良く、音に対しても敏感で、うたも手遊びも覚えが早いということ。ピアノも少々ままたちがってるとまらなければよい等自分の技術に対しても単なる不安にすぎなかったということ、指導内容についても指導案通りにはなかなかいかないが、他領域と関連させて勉強する必要があること、子供たちの生活の中に常に音楽があるので適当ではすまされなく保育者自身の音楽的能力を高める必要を感じ、心で弾くことが大切であるといったことが上げられた。

(2)実習後これからどんな音楽の勉強をしなければならないと思うか。という質問に対して次のようなものがあげられた。(表Ⅲ)

表Ⅲ (2)これから勉強しなければならないと思ったこと

| 項 目                 | 実数 | %    |
|---------------------|----|------|
| 1. 童謡のレパートリーをふやす    | 21 | 20.0 |
| 2. ピアノ              | 20 | 19.0 |
| 3. 弾き歌い             | 16 | 15.2 |
| 4. 手あそび、リズム遊び、集団あそび | 10 | 9.5  |
| 5. 伴奏法              | 8  | 7.6  |
| 6. 合奏、楽器の使用法        | 8  | 7.6  |
| 7. 初見               | 7  | 6.7  |
| 8. 歌唱、発声法           | 7  | 6.7  |
| 9. 教材研究             | 6  | 5.7  |
| 10. 子供を見ながらピアノをひく   | 4  | 3.8  |
| 11. 指導法             | 4  | 3.8  |
| 12. リズム             | 3  | 2.9  |
| 13. 季節に応じた曲         | 3  | 2.9  |
| 14. 身体表現            | 2  | 1.9  |
| 15. 教材の利用の仕方        | 2  | 1.9  |
| 16. 編曲法             | 1  | 0.9  |
| 17. 基礎からの勉強         | 1  | 0.9  |
| 18. 音楽理論            | 1  | 0.9  |
| 19. 鑑賞              | 1  | 0.9  |
| 20. その他             | 6  | 5.7  |

注：複数の回答があるため100%をこえる。

(23)その他幼児音楽に関して感じたこと、考えたことがあれば書きなさい。という問に対しては表Ⅳのような結果である。

幼児にとって音楽は生活の一部であり、子供の可能性をのばすための保育者の役割は重大である。したがって保育者は、基礎的技術をしっかりと身につけ、指導法も心得ておく必要がある。又幅広い勉強をすることが大切である。

表Ⅳ

(23)幼児音楽に関して感じたこと、考えたこと

| 項 目                          | 実数 | %   |
|------------------------------|----|-----|
| 1. 日常生活に音楽のしめる範囲が広い          | 5  | 4.8 |
| 2. 歌唱指導のやりにくさ                | 4  | 3.8 |
| 3. 表現をともなった指導の必要性            | 4  | 3.8 |
| 4. 子供の立場に立っての指導の必要性          | 4  | 3.8 |
| 5. 子供は覚えが早い                  | 4  | 3.8 |
| 6. 子供の音楽に対する興味をうまくひき出すことの大切さ | 4  | 3.8 |
| 7. 子供は全身で表現する                | 3  | 2.9 |
| 8. 教師自身の勉強の必要性               | 2  | 1.9 |
| 9. 発声法の勉強                    | 2  | 1.9 |
| 10. ピアノの伴奏を正確にする             | 2  | 1.9 |
| 11. 楽器の使用法について               | 2  | 1.9 |
| 12. リトミック                    | 1  | 0.9 |
| 13. 幼児音楽の大切さ                 | 1  | 0.9 |
| 14. 子供はリズム感がよい               | 1  | 0.9 |
| 15. 音楽のすばらしさ                 | 1  | 0.9 |
| 16. その他                      | 8  | 7.6 |

注 無回答が多いため100%にならない。

じめて子供の実態を認識し、把握してくるといった現状である。一方地域あるいは園によって、指導方法や内容、あるいは子供に対する保育者の姿勢等が千差万別であることを伺い知ることができる。学生は実習を通して今まで受身であった自分の学習態度を考え直し、保育者として必要な音楽の技術や方法、また子どもの音楽指導に対する考え方を自ら求めていき、かけを得たといえる。調査の目的も具体的にまた冷静に自分を判断すること、そして養成校での基本的学習をしっかりと身につけた上で、将来に続く学習意欲を持たせる契機になるようにと考えている。

なおこの調査は昭和58年11月18日、19日に福岡県東筑紫短期大学で開かれた、全国保母養成協議会全国大会において山口県私立短大保育者養成学科連絡協議会、音楽部会の研究グループが発表した資料をもとにしたものである。

## 5. まとめ

以上本学学生の実習前と実習後の自己評価を比較し、また三校の平均値の比較をしながら調査結果を検討してきましたが、「5」「4」と自己評価したものが、実習前より実習後の比率は高くなっているものの全体の比率としてはあまり高いとはいえない。これらの調査結果から、歌うこと、弾くことは大切ではあるが、実際の保育の場面に直面した時に技術中心的な音楽学習だけではどうにもならないといったことを身をもって体験し、感じている。また幼児の身体的発達とともに音楽的な面の発達について講義を受けているにもかかわらず、幼児との生活経験の乏しい学生には実感がなく、たしか知識とはなりえていないようで、実習に出ては